

今月の特集関連本 ①



『medicina』2020年8月号 (Vol.57 No.9) 患者満足度の高い便秘診療

中島 淳＝企画

定価 2,860 円／B5 判・224 頁／医学書院／2020

超高齢社会を背景に「慢性便秘」の患者は増加し続けているが、その治療に対する患者の満足度は低い。さらに最近では、便秘がさまざまな疾患のリスク因子になることが明らかとなり、単に QOL の問題ではなく、治療すべきものとして再認識されてきた。本特集では、便秘の適切な診断と、近年登場したさまざまな新薬の使い方を中心に、患者満足度の高い診療のコツを解説する。



『medicina』2019年9月号 (Vol.56 No.10) 脱・「とりあえずCT」！ スマートな腹痛診療

小林健二＝企画

定価 2,860 円／B5 判・168 頁／医学書院／2019

本特集内で執筆の小林健二先生 (p.438、454、456) のご企画特集！

腹痛は、何の仮説もなく検査に飛びついてしまうと、見つかった異常の解釈を誤ることがある。病歴と身体所見から“あたり”をつける作業が欠かせない。そこで本特集では、「限られた時間とリソースのなかで、いかに質の保たれた診療をするか」に焦点を当て、前半では腹痛診療のポイントを総論的に解説し、後半ではエキスパートがどのように腹痛にアプローチするのかを追体験できるように、症例を提示して解説した。



『medicina』2019年1月号 (Vol.56 No.1) 枠組みとケースから考える 消化器薬の選び方・使い方

野々垣浩二＝企画

定価 2,860 円／B5 判・192 頁／医学書院／2019

本特集内で執筆の野々垣浩二先生 (p.464、472、484) のご企画特集！

TPO を意識し、いつ、どの薬をどのように投薬すべきか。その知識を整理することは重要だ。本特集では、臨床現場のセッティング（「診断前・診断後」「診療の場面：救急外来、一般外来、病棟など」「処方医：研修医・非専門医、専門医」）を十分意識し、具体的な症例を通して「消化器薬」の選び方・使い方を解説する。